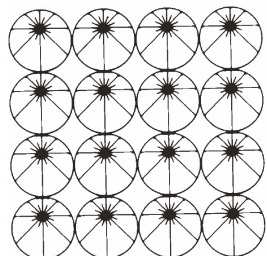


巻頭言



社会課題を「はかる」で解決

理事, CTO
野田 華子



2019年4月の米国を皮切りに、韓国、英国、中国で5Gサービスが開始されました。日本ではラグビーワールドカップなどのプレサービスを通して準備が進められ、そして2020年から5Gの本格運用が開始されます。すなわち、東京オリンピックが開催される今年が日本にとっての5G元年となります。

4Gまでは、携帯電話を通して人と人がつながり、コミュニケーションの幅を広げてきました。5Gでは、人だけではなくすべてのものがネットワークにつながります。工場の自動化、自動運転など、まるでSFで描かれた世界が通信技術の進歩により実現されるのです。工場では、製造ラインに取り付けられた無数のセンサのデータが5Gの無線ネットワークを通して集約され、エッジコンピューターで処理されることで生産工程が「見える化」され、より効率的な生産に導かれるでしょう。自動車は、5Gネットワークを介して常に最新の地図を自動的に入手し、道路上の障害物や周りの自動車の位置、カーブの先の自動車の存在などを理解しつつ自動的に目的地まで私たちを連れて行ってくれるようになるでしょう。私たちが実感できる場所では、手に取った品物の価格を自動的に判別し、自動的に支払いが済むショッピングも増えるでしょう。これらはいずれも、便利になる、だけではなく社会からの要請に応えるものです。メガトレンドの一つに「高齢化」があります。高齢化による労働人口の減少を、工場の自動化が補い、自動運転は、高齢者の移動手段の確保と同時に公共交通機関の運転手の代替を担います。このように、5Gは単なるコミュニケーションの手段としてだけではなく、私たちの生活を大きく変えていくのです。もちろんそこに、AI技術の存在は不可欠です。AI技術とエッジコンピューターが画像などの大容

量データから瞬時に必要な情報を抜き出し、価値の高い情報に変換し、工場の自動化や自動運転を可能とするのです。

5Gになるとモバイル通信のエコシステムも一変することでしょう。これまでのチップセット・携帯端末・ネットワークインフラベンダー、通信事業者の枠組みを超え、世の中のあらゆるプレイヤーと連携することで5Gによる世の中の変革を可能とするのです。アンリツも、さまざまな業種の方々との連携を一層強化していきたいと考えております。

さて、アンリツテクニカル No.95では、5Gの実現や食品ロス低減に寄与する製品の技術情報をご紹介します。また、AI応用や、6Gでも利用が進むとされているミリ波製品の研究開発への取り組みをご紹介します。

アンリツは2020年に125周年を迎えます。次の四半世紀、私たちがますます社会に求められる存在となるために、より一層の技術開発により「はかる」技術の高度化・拡張をすすめてまいります。そして、獲得した技術による社会課題の解決を皆さまとの連携のうえで取り組んでまいりたいと考えております。

